

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

二兎を追い（1年生）、二兎を追い（2年生）、二兎を獲る（3年生）大阪で一番元気のあつる学校～希望進路の実現 100%と自主活動への取組み 100%～

- 1 第一希望の進路を実現する確かな学力の養成
- 2 さまざまな自主活動を体験する中で、生徒一人ひとりが授業にはない「自主活動における学びの魅力」を発見し、発信していける学校
- 3 しっかりした人権意識とグローバルな視点を持ち高い志を抱いて社会に貢献する人材の育成
- 4 芸能文化の学びの中で新たな自分を発見し、大阪の文化の発展に寄与できる人材の育成

2 中期的目標

1 進路を実現する確かな学力の養成

(1) 生徒が生き生きと学ぶ授業づくり

- ア 生徒が生き生きと取り組む魅力ある授業づくりのために、研究授業、学校教育自己診断、授業アンケート等を効果的に活用する。
- イ ICTを活用した授業を全教科で行い、進路実現とこれからの時代に求められる認知的学力と思考力・判断力・表現力などの非認知的学力を育成する。
- ウ 学習指導要領を踏まえ、習熟度別授業、選択科目の充実を図る。

(2) 一人ひとりの生徒の希望の進路を実現する。

- ア 大学関係者による講演や大学見学など、進路について考える機会を豊富に用意し、希望の進路を実現する強い意志を育む。
- イ 学習習慣の確立のために、年間を通じた自習室運営、長期休業中の勉強合宿などに学校組織として取り組む。
- ウ 外部機関を活用して効率的に情報収集、情報分析を行うとともに、志望校情報交換会などの取組みを行い、生徒支援のための情報共有を進める。
- エ 学力診断テストの結果分析会、志望校検討会を実施するなど指導方針の共通理解を形成しより効果的な進路指導を確立する。

* H28 年度入試結果（国公立 38 名、関西難関私立大学 250 名）を H31 年度入試で国公立大学 45 名以上、関西難関私立大学合格 250 名以上とする。

(3) 生徒の心身の健康を育み、学力向上の土台作りをする。

- ア 遅刻・欠席を少なくするなど学習の土台となる生活習慣の確立及び自律的で規律ある生活態度の確立に全教職員が連携して取り組む。
- イ 生徒が心身の健康を保ち安心して安全な学校生活を送れるよう、教育相談体制の確立と学校保健の取組みの充実を図る。
- ウ 生徒が自己や社会の在り方に関心を持ち、考え抜く力を養うための方法として読書に取り組めるよう、図書館の充実と読書啓発を進める。

2 自主活動の充実

(1) 生徒会活動をはじめとする自主活動の充実

- ア 体育祭を本校生徒会における最大の行事として位置づけ、本校独自の学年縦割り組織により「応援」「アトラクション」「マスコット」「スタンド」の活動を通してよき伝統を継承する。
- イ 文化祭における3年生「コーラスコンクール」の継承とともに、1・2年生の取組みの充実を図る。
- ウ 生徒が積極的にかつ安全に部活動に取り組めるよう、指導者の確保や施設設備の整備等の環境整備に努める。

※ 生徒向け学校教育自己診断における学校満足度を 100%に近づける。

(2) 外部連携とボランティア活動の充実

- ア チャリティーマラソンの実施（国内被災地やネパールへの支援）をはじめボランティア活動を積極的に推進する。
- イ 芸能文化科による和文化の普及継承に取り組む小高連携授業や、部活動・教科活動における異校種間の交流・連携、地域連携、クリーンアップキャンペーンなどを継続する。

3 人権教育、キャリア教育、国際理解教育の充実

(1) 自他を尊重することのできる幅広い人権教育に計画的に取り組む。

(2) 「総合的な学習の時間」と LHR 等を活用して計画的にキャリア教育を推進する。

(3) 他者への思いやりと貢献意欲を強く持ち、行動へ移すことのできる、国際社会で必要とされる人材を育成する。

- ア 海外への修学旅行や海外研修を経験することで、国際語である英語の習得意欲を喚起するとともに、国際社会に生きる人材として異文化体験を通じてグローバルな視点を養う。
- イ 芸能文化科の生徒を中心に据えて、外国の生徒に日本の伝統的文化を体験してもらう機会を持つだけでなく、外国の教育関係者に日本（特に大阪）の伝統文化教育の意義と成果を積極的に発信する。
- ウ 国際社会における意思疎通の手段の一つとして重要な位置を占める英語でのコミュニケーション能力を高めるため、授業・補習にとどまらず、朝の HR を利用した英単語テスト、英語学力調査、T-NET の効果的な活用など様々な取組み等を積極的に推進する。

※ 英語学力調査に平成 28 年度の 1 年生から取組み、平成 29 年から 1・2 年生全員受験、3 年時に 3 技能ともグレード 4 以上を目標とする。

4 芸能文化科の学びの推進

芸能文化科の取組を核として、国際社会において、日本の伝統や文化を積極的にかつ自信を持って発信し交流できる人材を育成する。

- ア 国内唯一の学科である芸能文化科の専門科目の一層の充実を図るために、特別非常勤講師や大阪芸術大学、近畿大学等との連携を強化する。
- イ 様々なメディアを通じて、芸能文化科の教育内容や外部連携の内容が伝わるよう情報発信を行う。
- ウ 芸能文化科が長年に亘って行ってきた社会貢献により構築したネットワークを活用して、応援団的ネットワーク作りを推進する。

5 積極的な情報発信

- ア HP の充実や体育祭、文化祭、チャリティーマラソンの一般公開など学校の教育活動を積極的に発信する。
- イ 学校説明会や中学校訪問を通して、中学生や保護者に対し本校の教育内容についての理解促進を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】 生徒向けでは「授業はわかりやすくなる」90%（H28 は 79%）、「教え方に工夫している先生が多い」79%（H28 は 76%）と増加した。「ICT を使った授業はわかりやすい」と答えた生徒も 78% と多く、教員向けでも「ICT が設置されて授業を工夫するようになった」と 88% が回答していて、今年度途中に PTA や同窓会等の支援によりプロジェクタ等の ICT 機器を設置していただいたことが大きく授業の工夫・向上につながったと思われる。一方、教員の「思考力を重視した問題解決的な学習指導」の項目で肯定 66%（H27 は 84%）と低く、昨年度からアクティブラーニングに取り組む授業研究を行ってきたことが、問題意識として表れた。次期指導要領を見据え具体的な授業方法についてさらに全体で研究していきたい。</p> <p>【進路指導】 生徒向けで「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」89%、保護者向けも「進路について適切な指導を行っている」88%、教員も「一人ひとりにきめ細かい指導している」90%と全体に高評価であり、進路指導については継続した方向性での取組みが求められていると言える。</p> <p>【生徒指導】 生徒指導に関しては、保護者の「家庭連絡や意思疎通がきめ細やかで相談に応じてくれる」が 86%（H28 は 75%）と増え、生徒の「担任以外にも相談できる」も 69%（H28 は 65%）と増加しつつある。</p> <p>【学校運営】 学校行事については、生徒向けが「盛んで楽しく参加している」が 93%、保護者も 94%、教員も「魅力ある行事のために工夫・改善」が 84%と三者ともに評価が高く本校の大きな特徴と言える。一方、教員の「教育活動全般にわたる評価を次年度に活かしている」が 73%（H28 は 79%）と下がるなど、厳しい見方もめだつた。H27 年度教員の回答率が 54.3%から H27 年度は 71.4%、今年度は 100%と上昇し、全体の意見が反映されるようになってきている。学校として PDCA サイクルを循環させ、より良い取組を進めていきたい。</p>	<p>第 1 回（6/19） ○授業見学後、平成 29 年度学校経営計画等について ・ペアワークなどを通して生徒を積極的に動かしていた。「何を学ばせたいのか」をはっきりさせる教員の準備が大切である。 ・新しい受験制度に対応できる力を生徒につけてもらいたい。</p> <p>第 2 回（11/18） ○チャリティーマラソン及び教室 ICT 整備状況見学 ・非常に素晴らしい機器。環境整備に対して成果で応えてもらいたい。 ・センター試験の変化に伴い教員全体が情報共有しながら改革に対応できる授業を作り上げてほしい。</p> <p>第 3 回（1/31） ○H29 学校評価案について ・ICT 寄贈が学校の授業をよりよくする契機となり非常に嬉しい。さらに活用してもらいたい。 ○H30 学校経営計画について ・新学習指導要領を見据えた授業研究、大学入試改革にしっかり備えるとともに、教員の多忙化解消に取り組んでももらいたい。</p>

府立東住吉高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 進路を実現する確かな学力の養成	(1) 魅力ある授業づくり (2) 進路実現のための取組 (3) 生徒の心身の健康の推進	① さらなる授業力UPに向けての校内研修・研究授業を組織的に行い、授業力向上とともにミドルリーダーを育成し、「チーム学校」をめざす。 ② 志望校情報交換会を前期・後期に開催して、生徒の志望校に関する情報を共有し、第一希望の進路実現を学校として支援する。 ③ 大学や企業と連携し進学講演会などの行事を実施する。 ④ 従来の進路指導の取組に加え、学校経営推進費による懇談・質問への対応強化 ⑤ 組織的な教育相談体制を確立する。 ⑥ 基本的な生活習慣を大切にす。 ⑦ 図書館活動の充実により、読書への意欲を高める。	① ・校内PTを立ち上げ組織的な授業づくり研修・研究授業を実施する。 ・学校教育自己診断における「授業工夫」の項目の評価を78%以上(H28:76%) ② ・国公立大学合格者数目標35/360名以上(H28:38/400名) ・難関私立大学合格者数230/360名以上(H28:250/400名) ③ 上記 ④ 上記 ⑤ 教育相談の組織と役割の整備 ⑥ 遅刻・欠席数の1割減少(H28遅刻4503、欠席4096) ⑦ 平成27年度から取組みを始めた読書通帳活動をさらに推進し、図書の出冊数を引き上げる(H28:1200冊)	① PTが中心となって研究授業・校内研修を計画的に進めたほか、PTAや同窓会等からの寄贈を受けICT環境が整備されたことも影響し、自己診断における「工夫をしている先生が多い(生徒)」79%、「授業工夫するようになった(教員)」88%(◎) ② センター試験志願率72%←H28:66%センター試験受験率64%←H28:61%(◎) 国公立大学27名、難関私立大学合格者数176名(現役で比較すると、国公立H28は10クラスで22名合格、H29は9クラスで22名合格)(△) ③ 生徒対象はもちろん、保護者対象の大学や教育産業を活用した進路講演会や説明会を実施(○) ④ 経営推進費による質問・懇談スペースの有効活用(○) ⑤ 保体部教育相談係が生徒状況を把握し、各学年支援員・SCと連携してケース会議を実施。さらに生徒支援委員会で具体的な配慮内容を検討し、進級卒業に向けて特別事情検討委員会で最終確認する体制を整えた。(◎) ⑥ 遅刻4133、欠席4736(△) ⑦ 1月26日現在の貸出数は、619冊(△)
2 自主活動の充実	(1) 自主活動の充実 (2) 外部連携・ボランティア活動の充実	① 体育祭応援団の規律ある活動を継続し、生徒に集中と切替の意識を徹底させるとともに、生徒会執行部、団活動(応援、アトラクション、マスコット、スタッド)、体育祭実行委員会の活動を通じて、綿密な計画と準備過程の大切さを体感させる。 ② 芸能文化科生徒及び部活動所属生徒による異校種交流や地域連携、チャリティーマラソン、小中学生対象理科実験教室、クリーンアップキャンペーン等を継続して行う。	① 学校教育自己診断における体育祭・文化祭、学校行事の項目の肯定的回答(H28:94%)を維持する。 ② 学校教育自己診断におけるボランティアに関する項目の肯定的回答を90%にする。(H28:87%)	① 体育祭観客動員数3000人、さらに体育祭にて、熊本大地震への支援金146586円を集め被災した高校生に贈った。生徒満足度は93%(○) ② ・芸能文化科生徒…国際交流、地域のイベント参加、高齢者施設等訪問、他校種交流等 ・生徒会・ボランティア部…学校行事運営、第12回チャリティーマラソン運営(ボランティアランナー400人参加)、ボランティア活動及び平野区役所との交流等 ・理科研究部…小中学生対象理解実験教室(年間6回)を開催(5回開催し118人参加)、中谷財団の科学教育振興助成に選ばれ報告 ・保体部…クリーンアップキャンペーン(美化委員及び一般生徒54名参加) ・自己診断における生徒のボランティア意識は87%と横ばい。(○)
3 人権教育、キャリア教育、国際理解教育の充実	(1) 人権教育の取組 (2) キャリア教育の取組 (3) 国際理解教育の取組	① 本校の「人権教育マップ」を作成し、3年間通しての人権教育計画を策定するとともに人権講演会等の行事を実施する。 ② 卒業後の進路を考えるためのキャリア教育の取組について再構築する。 ③ 隔年実施している国際ボランティア活動でもあるネパール・スタディーツアーを実施する。 ④ 留学生の受入れや海外修学旅行連携校の訪問受入れなど、双方向の国際交流を図る。 ⑤ 英語でのコミュニケーション能力を高めるため、朝のS.H.R.を利用した英単語テストを行うとともに英語学力調査を1・2年生で実施する。	① ・人権行事の実施 ・自己診断における人権教育に係る項目の肯定的回答を73%以上に(H28:70%) ② ・校内PTを立ち上げ総合的な学習の時間を再構築し、3年間の実施計画を策定する。 ・自己診断での「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」88%の維持 ③ ネパール・スタディーツアー事後アンケートで満足度90%を目標とする。 ④ 自己診断アンケートで、国際交流の質問項目を設け、肯定的回答70%を目標とする。 ⑤ 英語学力調査の1・2年生平均スコアの3技能平均グレード3.2以上を目標とする。	① 人権行事を新たに実施。自己診断では生徒の人権に関する項目肯定は79%(◎) ② 総学PTで「進路実現」「学習習慣の確立」「人権教育」を軸に人間力を養うことを目標とした3年間の実施計画を策定した。自己診断での進路に関する項目肯定は89%(◎) ③ ネパール・スタディーツアー事後感想で満足度は100%。(◎) ④ ワールドフェスティバルでネパール・スタディーツアー優秀賞獲得。自己診断で国際交流の項目肯定83%(◎) ⑤ 朝の英単語テストは全学年計画通り実施し、語彙力増強に役立った。また英語学力調査を1・2学年で実施した。グレードの結果は2学年平均3.35。(◎)
信5 積極的な情報発信	(1) 情報発信の刷新	① さらに「見やすい」「わかりやすい」「安心な」ホームページの刷新を図る。 ② ホームページのデザインをさらに見やすくリニューアルし、項目や記事の整理も行う。 ③ 記載内容の安全性を確保する。	① 校内PTを立ち上げ、デザイン・機能・記事を刷新する。 ② カウンター機能を設定して閲覧状況を把握。(訪問者数目標年間6,000人) ③ 個人情報やネット上の人権について教職員研修を実施し、肯定的回答の目標を80%以上にす。(H28:79%)	① ホームページリニューアルは、年度内完了予定。(○) ② カウンター機能による閲覧状況は、1/24時点では、過去1年間80418件、半年間36334件、1ヶ月5896件と目標をはるかに超えている。(◎) ③ 教育相談、危機安全管理、いじめ、授業研究、ネット上の人権等の研修を実施。教員の校内研修への満足度は71%(△)